



Wang Limin

1964年生まれ

出身地：中国上海

現在の肩書き：中国社会科学院経済研究所研究員

アジ研での研究テーマ：中国の地域経済発展

一言：日本の警察は世界で最も優秀ですね。社会の安全を保障するうえで、もっとも重要な役割を果たしていると思います。

滞在期間：1995年2月～8月

秩序と責任が裏づける賑わい

—日本の警察との二度にわたる交流のなかで—

王利民（中国）

東京に到着したばかりの頃、発展途上国からやってきた私にとって、最も印象深かったのは街の賑わいだ。密集する高層ビル、行き交う人の波、空を駆ける高速道路、網の目のように広がる地下鉄、そして多種多様な店舗の数々。夜になればネオンの群がいたるところで輝き、東京は艶やかな不夜城に変身する。東京は間違いなく世界で最も賑やかな大都会だ！

東京で生活するようになって、はや四カ月になるが、当初の感動は少しも色あせることはない。むしろわたしの心を揺さぶっている。それというのも、私はささやかな体験と観察を通じて、この賑わいの裏には秩序が存在することを知ったからだ。秩序があるからこそ、賑わいは喧噪に変わることなく、私が物珍しさに飽くこともない。

一番感心したのは、都市交通の秩序の良さである。バスも地下鉄も、みんな時刻表通りに正確にやってくる。運転手も歩行人もみな整然と複雑な規則を遵守しており、赤信号を無視する者など見あたらない。北京とは違って、自転車は人の多い歩道を走っているが、歩行者と衝突することは稀なようだ。みんなお互いに道を譲り合って、「すみません」と声を掛けている。

このような秩序正しい交通は、交通規則だけでなく、警察の尽力の賜物でもある。私は東京に着くと、すぐ自転車を購入して、どこへ行くにもこれを使っている。おかげで他の人には滅多に経験できない体験が出来た。この四カ月間に、私は自転車と警察の交通管理のおかげで、たいそう心に残る経験を二回もしたのだ。

四月中旬、霞ヶ関駅の近くまで自転車で来たとき、私は警察に呼び止められた。私は日本語が不自由なうえに、携帯義務のあるパスポートを持っていなかったため、警察署まで連行されてしまった。署では英語のできる若い警官が私の「お世話」をしてくれた。彼は当初は「翌日パスポートをもって自転車を取りに来るように」といつていたが、結局自ら自転車を漕いで私を下宿まで送ってくれた。そしてパスポートを手にした私を再び連れて警察署に戻り、手続きを済ませると何度も謝ってから私を放免してくれた。

またある夜、私は自転車で乗って池袋まで出かけ、駅の近くに自転車を停めておいた。用事を済ませて駅に戻ると、自転車は姿を消していた。鍵をかけていなかったからだ。その夜、私は悶々としながら地下鉄で帰宅した。驚いたことに三日後、警察か

ら自転車を取りに来るようにとの連絡が入った。望外の喜びだった。翌日警察で頭末を聞くと、あの夜、酔っぱらいが私の自転車に乗ってスピードの出しすぎで、警察に尋問されたのだそうだ。その結果、自転車の所有者でないことが分かったので、警察は自転車に貼ってあった住所ラベルから、苦勞して私の下宿の電話番号を調べて、連絡してくれたのだ。私がお礼を述べて帰ろうとすると、警察の人たちは自転車の修繕まで手伝ってくれた。

この二件の出来事を友達に話すと、みな喜ぶべきハプニングだという。日本の警察は世界最高とよくいうけれども、日本に來てから何年にもなるのに、彼らはまだ噂しか聞いたことがない。私は来日してわずか数カ月で、二回も身を持って体験できたのだから。

おかげで私の日本での生活は印象深いものになったし、また思索のきっかけにもなった。日本人の勤勉さと遵法精神は有名だが、これこそ日本の奇跡を生み出した重要な要因である。二つの世紀の狭間に立つ中華民族は、今まさに経済の離陸期にある。私たちは、日本の繁栄を創出したこれらの要点を参考とすべきだ。（海外客員研究員）

訳 沢田ゆかり